



資本力とソフトハード資産における企業判断と世界市場のグローバル化

Office
of
Takeshi
Kuroda
黒田 毅

これらは次世代技術への移行は、開発における資本力と環境が遥かに創造に勝る自己プレゼンスを行うことに対して、企業は明確な自己選択を要求される。現実において資本力は開発の優位性を大幅に有し、巨大ファンドの資本は、その先端技術への投資を自己としているのである。

これらは企業連合の形成という選択を与えるのである。一社で限定される開発力の拡大は唯一生き残りの選択として現実を有するのである。これはグローバル化した市場において、メジャーの巨大な資本力と開発力と同等のグループ形成は生き残りにおいてその必要性を与えるのである。

GAFAM の資本力と開発力は必ず新しい時代における企業基準なのである。なぜなら基準は、最も優れたものへの追随なのである。

これらは企業のソフトとハード資産が、製品生産と開発において与えるプレゼンスは、技術の飛躍において、新しい現実をビジネス社会において形成するのである。

これらは西洋陣営が有する技術と資本力が、新しい未来の創造を模索しているので有り、未来という現実はず必ず存在するのである。この未来という基準における企業形成への転換は企業の必題なのである。

これら基準における自己転換は、唯一未来への参加の基準であることは真実で有り、早急に企業において自己転換を終了させなくてはならない。

これらは明らかに現状の社会変化と市場変化の真実なのである。勝利者を追うことは、それを自己とすることなのである。

これはビジネスが生き残り競争であることにおいて正しいのである。これは一部上場企業における現実はず唯一生き残り競争であることにおいて、企業の振り分けが今後予測されるのである。